

6 研究活動と研究環境

【目標】

大学は、学術研究の中心として深く真理を探求し、専門の学芸を教授することを本質とする。本学も教育活動に大きなウエイトをおくとしても、それは研究活動に支えられるものとして意味をもつのであり、教育活動と研究活動が不可分の関係にあることはいうまでもない。また、文化、情報技術、社会福祉、食物・栄養、医薬などの分野における優秀な人材と研究成果の蓄積こそ大学にとって大切な知的財産であるといえる。

このような知的財産を社会に還元し、同時に産業界や行政、地域社会との連携により社会に貢献していくとの考えから 2004 年 4 月に学術研究推進センターを発足させた。本学では、本学で営まれている多様な学術研究と地域社会との積極的な交流や産官学連携を推進し、今後も積極的な展開を目指す。

学術研究推進センターにおいて、研究費と成果の關係に第三者の一定の評価を導入することの検討や外部の研究資金の積極的な導入を図るとともに、本学として財政的、人的研究支援体制の整備などの総合的な研究支援体制の整備を図ることは、本学の最重要課題のひとつである。

(1) 学部・学科、大学院研究科における研究活動

(研究活動)

論文等研究成果の発表状況 (A 群)

本学教員の論文等研究成果については、「教員研究活動等報告書 2006」[調書(3) = 大学基礎データ表 24、表 25]に掲載されている。当該報告書は、研究・社会活動状況を自己点検・評価する目的で発行され、学内だけでなく学外にも広く配布されている。さらに、本学ホームページにも当該報告書と同様の研究成果が掲載されている。このように研究成果を学外に公開することにより、本学の知的財産は積極的に社会に還元されている。

「教員研究活動等報告書 2006」において記載されているように、2003 年度から 2005 年度までの本学教員による論文発表数は、66 件、91 件、137 件となっており、確実に増加している。

特に、2005 年度における 137 件という発表数は特別任用助手を除いたものであり、特別任用助手の発表数を加えると、2005 年度は 159 件と顕著に増加している。

当該年度における教員数は、年度順に 122 名、139 名、154 名 (特別任用助手を含めると 171 名) であり、教員 1 名あたりの論文発表数は 0.54 件、0.65 件、0.86 件 (0.93 件) と

確実に増加していることがわかる。

各学科における教員 1 名あたりの論文発表数は、以下のとおりである。

学科	2003 年度	2004 年度	2005 年度
英語英文学科	0.20	0.12	0.38
日本語日本文学科	0.75	0.62	1.29
音楽学科	0.27	0.47	0.25
情報メディア学科	0.93	0.33	0.87
社会システム学科	0.45	0.75	0.89
現代こども学科	-	0.90	1.10
医療薬学科	-	-	1.42(特別任用 助手を含めると 1.47)
人間生活学科	0.60	1.22	0.50
食物栄養科学科	0.87	1.24	1.34

各学科とも若干のばらつきはあるが、おおむね増加傾向が見られる。2004 年度、2005 年度と顕著に増加しているのは現代こども学科、医療薬学科の影響を受けていると思われる。2006 年度は、学科の新設はないため顕著な増加はないが、増加傾向は続く見込みであり、上記と同様に論文発表数の確認を続け、研究活動支援体制の強化につとめる。

論文等研究成果の発表状況 (A 群) 大学院

2006 年度大学院の授業を担当している教員の論文発表数(2003 年度から 2005 年度)は、以下のとおりである。

2003 年度 35 件

2004 年度 37 件

2005 年度 51 件

であり、順調に増加している。

2006 年度に大学院の授業を担当している教員数は 56 名であるので、1 名あたりの論文数は、

2003 年度 0.63

2004 年度 0.66

2005 年度 0.91

となっている。

学部と同様に毎年確実に増加しており、この増加傾向は今後も続く見込みであり、論文

発表数の確認を続け、研究活動支援体制の強化に努める。

（教育研究組織単位間の研究上の連携）

附置研究所とこれを設置する大学・大学院との関係（A群）

（ア）総合文化研究所

1965年に発足した同志社女子大学研究所は、「研究なき教育は不可能」という観点から、研究と教育の一本化を目指して活動を展開してきたが、1981年4月からこの機関を抜本的に改組して総合文化研究所と改称した。

総合文化研究所では、本学で研究されている広い分野の学問領域を生かして、従来からの個人研究・共同研究に加えて、総合的・学際的な研究を行うため研究プロジェクトを設けた。この研究プロジェクトは着実に成果を上げ、その研究成果は、「総合文化研究所紀要」の他、「同志社女子大学学術研究年報」等によって公刊し、また、公開講演会などを開催し発表している。

2004年4月に本学における学術研究活動の強化ならびに外部機関との研究連携推進等のために、総合文化研究所を基盤として設置された「学術研究推進センター」に組み込まれた。

「同志社女子大学の研究所の研究員に関する内規」では附置研究所の研究員の種類として専任研究員、専従研究員、兼担研究員がある。2003年度から2005年度では専任研究員は配属されていない。

専従研究員は、本学の国内研究助成Bの交付を受けて個別テーマに専従するものである。2003年度の専従研究員は0名であったが、2004年度は1名、2005年度は2名の教員が専従研究員として個別テーマに専従し研究を行った。

研究助成金、研究奨励金を受けた教員を兼担研究員としている。2003年度は24名、2004年度は22名、2005年度は26名の教員が兼担研究員として研究に従事した。

当該年度における教員数は、年度順に122名、139名、154名ということを考えあわせると附置研究所と本学の教員は密接に関係している。

附置研究所とこれを設置する大学・大学院との関係（A群）大学院

2006年度大学院の授業を担当している教員で附置研究所の研究員として研究に従事した教員数は、以下のとおりである。

専従研究員：	2003年度	0名
	2004年度	0名
	2005年度	2名

兼任研究員： 2003 年度 12 名
2004 年度 12 名
2005 年度 9 名

2006 年度に大学院の授業を担当している教員数が 56 名ということを考え合わせると、学部と同様に附置研究所と大学院授業を担当している教員は密接に関係している。